

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年(2026年)2月19日
札幌市立福井野小学校

1 学校教育目標

「未来を開き 豊かな心をもつ子どもの育成」

2 令和7年度の重点目標

笑顔あふれ、皆がつながる福井野小学校
～人とのつながりを大切に、進んで行動できる子どもの育成～
「知・徳・体の調和のとれた育ち」「ICTを活用した教育」「信頼される学校」

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

重点	主な評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	実践結果と改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
① 学ぶ力	・学ぶ楽しさの実感、自ら学ぶ意欲の向上	B	子どもたちが自ら課題を見付け、自ら考え、自ら解決しようとする資質と能力を身に付けることができるよう、「基礎基本の定着を図る」「仲間とつながり学び合うことを大切に授業」、この2本の柱のもと、研究・授業を展開してきた。学び合いを通して多様な考えに触れることや体験的な学習を通して、自分の考えを深め、「分かった・できた」と実感している様子が多くみられた。さらなる向上を目指すと共に、特に「基礎基本の定着」については、課題が残るところでもあった。 今後も、学ぶ楽しさの実感や、自ら学ぶ意欲の向上を基盤に、課題探究的な学習、学び合う場を確保することを維持しつつ、個に応じた指導を充実させることにより、基礎基本の定着を図っていく。さらに、家庭との共通理解、連携も進めたい。	A	A
② 豊かな心	・人とのつながりを大切にする ・自分や相手を大切にする	A	子どもたちによる主体的なあいさつ週間の活動や委員会活動では、共に協力する心が育っている。縦割り「なかよし活動」や、伝統の「太鼓活動」など異学年交流を通して、高学年のリーダーシップが醸成されるとともに、上の学年を手本にしたり下の学年に思いやりをもって接したりする姿が多く見られた。自分たちの生活を自分たちでよりよくしていこうとする気持ちが育ってきている。一方、自らを律し、きまりを守って生活することには課題があることもうかがえる。 きまりの必要性や意義などをしっかりと伝えとる共に、繰り返し指導を重ねる。引続き、保護者、ご家庭とのつながりを深め、ともに連携しながら指導を続ける。	A	A
③ 健やかな体	・運動の楽しさの実感 ・心も体も健康的に	B	運動に親しむ機会として、「縄跳び週間」「跳び箱・マット週間」「休み時間活性化週間」の設定、外遊びができない時季の環境整備等を重ねてきた。その結果、子どもたちが運動の楽しさを味わうことができた。また、SCによる「命の授業」や栄養教諭による「食指導」などを通して、体だけでなく心の健康にも意識を高めさせる指導を重ねてきた。日常的に、運動を楽しむ姿が多くみられた。 児童自身が健やかな体づくり、心身の健康への関心を高め、行動につなげていくことができるよう、運動だけにとどまらず、心身の健康管理を勧める指導を重ねる。	A	A
④ ICTを活用した教育	・ICTのよりよい使い手となる	B	一人一台端末を、「個人の学び」「集団の学び」において、学びの質を高める効果的な使い方ができるよう検証しながら取り組んできた。学び合いを生み、ICT機器が学習・生活の中に定着してきている。 ルールやマナーを守ること、相手意識や情報モラルの意識付けなどは課題であり、家庭とも連携しながらよりよいICTの使い手となる素地の育成を図っていく。	A	A
⑤ 信頼される学校	・保護者、地域、関係機関との連携	B	保護者・地域の皆様には子どもたちの学校生活の見守り、通学路での交通指導、楽しい学校生活にするための関わりなど、学校へのご理解・ご協力をいただき大変ありがたく感じている。 子どもたちが安心して学校生活を送るとともに、保護者・地域の皆様に安心して子どもたちを任せていただける学校であり続けるよう、強固な組織体制をもって、業務にあたる。また、指導力の向上を目指し、一層の努力をしていく。さらに、学校ホームページや「すぐる」の活用、行事等を通して、保護者・地域の皆様に学校の情報や児童の様子をタイムリーに発信していく。学校を支えてくださっている皆様とのつながりを大切に、丁寧に対応していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福井野小学校の子どもたちは、根がとても素直なので、今後もさらに成長していくことを期待している。 ・取組の企画が豊富であり、児童の活動の様子から、子どもの育ちや課題を把握したり、子どもの声を生かす取り組みにつながりしていることが大変良い。 ・学校全体で取り組んでいる様子が分かる。子ども一人一人の自覚しているものは違うので、それを生かすのは先生方の指導によるところが大きいと考えられる。 ・家庭との連携について、その重要性は変わらず高いと思う。どのように推進していくか工夫が必要。開かれた学校づくりを進める。 ・中学校との情報共有や教員間の交流により、活性化していくことがたくさんあると期待している。年度当初の教育課程にしっかりと位置づけ計画的に実行していく必要がある。 				